

【十一月の言葉（平成三十年）】

争いはアラソイヲモツテ

止めることはできない。

ただ「忍」だけが争いを

終息させることができる。

私たちは自らの過ちや愚かさを認めるだけでも苦しみます。さらに、自分と異なる相手を認めることでも苦しみます。

怨みうらを捨てることが非常に困難であることは、人類の歴史が物語っています。

一般的に「忍」は「しのぶ」と読んで、現代では「我慢」の意味に理解しがちです。しかし仏教では、我慢とは「我という慢心」でしかなく、自己中心の身勝手な思いで自己を正当化して他者を認めずに批判・否定している姿です。

私たちの生活は一見平穏そうに見えても、それは我慢しているだけではないでしょうか。

真の平和には、自己中心的な我慢ではなく「忍」が必要なのです。

それは相手を認めて許す「寛恕かんじよ」であって、智慧に裏付けられた慈悲なのです。

寛恕かんじよ＝あやまちなどをとがめず許すこと